

Y21b 小学校における天文部活動「アストロクラブ」の試み

高梨直紘 (東京大学)、伊藤哲也 (国立天文台)、亀谷和久 (JAXA)、塚田健 (星の子館)、夏苺聡美 (国立天文台)、平松正顕 (台湾・中央研究院)、増田秀子 (夢育支援ネットワーク)、アストロクラブ運営メンバー

アストロクラブは、天文学普及プロジェクト「天プラ」が運営している、小学校における天文部活動である。小学校の全学年を対象として参加者を募集しており、低学年から高学年まで毎年 30-40 名ほどの参加がある。2006 年度に活動を開始し今年 (2009 年度) でちょうど 4 年目を迎える。

アストロクラブへは、1 年生から 6 年生まですべての学年からの参加があるが、低学年の児童が半分を占めているのが特徴である。開催頻度は月に 1 回で、主に月のよく見える晩を選んで開催している。通常、教室での座学と、屋上での天体観察をセットにして活動を行っている。座学は、最先端の天文学の話題からガリレオ望遠鏡の工作教室など、さまざまなテーマをバランス良く選んで行っている。年に 2 回ほどは施設見学を行っており、国立天文台や日本科学未来館といった研究/教育施設を訪問している。

アストロクラブは、小学生に最先端の天文学の魅力を伝える活動であるとともに、地域と協力しながら天文学の普及を行う試みでもある。天文学の研究・普及・教育に取り組むグループ「天プラ」のメンバー、三鷹市立第四小学校で教育支援活動を行っている NPO 法人「夢育支援ネットワーク」とそれを支える保護者、三鷹ネットワーク大学によって育成されている星のソムリエが協力しながら運営されており、取り組み自体が天文学普及のモデル実験となっている。講演では、以上の取り組みについて紹介するとともに、児童らの反応についても報告する。